



自尊感情を育む

校長

紫陽花の彩りを楽しめる季節が近づいてまいりました。4月よりスタートした令和5年度も、1学期の折り返しを迎えます。子供たちは新しい学級にもすっかり慣れ、落ち着いた雰囲気の中、学習や生活に臨んでいます。また、各学年に目を向けると、1・2年生の学校探検、3・4年生の日立市内一周校外学習、5・6年生の田植え体験などの学習にいきいきと取り組む姿が見られました。新入生おめでとう集会では、1年生を全校児童が迎え入れる山部小ならではのあたたかい集会活動に感動を覚えました。今年度の教育活動も着実に歩みを進めることができていると実感しています。

さて、日本の子どもたちは、諸外国に比べて「自尊感情が低い」という実態が、様々な報告で取り上げられています。学校では、本年度の山部小学校教育プランにおける目指す児童の姿の1つ〈なかよく〉の「自尊感情や自己有用感の高揚」に力を入れています。自尊感情は、「生まれてきてよかった」、「自分にはできることがある」など、自分自身を基本的にかげがえのない価値である存在とする感情であり、学習意欲の向上や良好な人間関係を築こうとする源となります。また、自尊感情は褒められることによって育ちますが、ただ褒めればよいというわけではありません。子ども達の具体的な活動の場面を捉えて褒めることにより、子ども一人一人が自己の成長を感じるようになります。そして、自尊感情が育まれることにより、子ども達は自他のよさや違いを認め、互いに尊重し合う具体的な態度や行動につながり、さらには、失敗しても立ち直る心の育成にもつながっていきます。学校では、係活動・委員会活動・クラブ活動などの特別活動や様々な体験活動、本校の伝統である縦割り班活動を充実させ、絆づくり・居場所づくり・出番づくりを通して「できた」「がんばれた」という達成感を味わわせ、「自尊感情や自己有用感」を育てていきます。

6月は、市教育委員会等の各種の学校訪問や全校遠足(6/2)・授業参観(6/29)などの行事が予定されています。梅雨期を迎え、衛生管理とともに熱中症対策にも十分気を付けていきます。今月も、家庭や地域の皆様のご理解・ご協力をお願いします。

〈自尊感情が高い子どもの姿の例〉

- 自分の思いや考えを素直に話すことができる。
- 学校に行くことが楽しいと感じている。
- 自分に自信があり、様々な物事に取り組む意欲が高い。
- 友達や周囲の大人との人間関係が良好。

〈自尊感情が低い子どもの姿の例〉

- ありのままの自分を出すことに自信がもてない。
- 失敗を恐れ、消極的になる。
- 他者に対して信頼感をもつことができない。
- 他者を排除したり、攻撃的な態度に出たりする。